

## 学校関係者評価委員の報告書

学校法人 常盤学園

### 【学園運営について】（園長報告）

- ・令和5年度を振り返った時、昭和、平成、令和と時代の流れの中で、自分たちの指導はこれで良いのかという壁にぶち当たっている。
- ・社会の実態を見ると人間が壊れている。世界を含めて、人を大事にできないことに心が痛む。
- ・年明けには能登地震も起こり、さあ今年も頑張ろうという気持ちが薄れてしまったが、今やれることを一生懸命やらせて頂くと奮起し直した。
- ・来年度からの新制度は、今まで補助金を県の私学から助成金で頂いていたのを、焼津市からの補助として給付金を頂くことになる。  
人数が少ない方が給付金が多くなり、定員が決められてくる。  
新屋幼稚園45名、西町幼稚園200名で申請をする。
- ・保育士不足、大学生の正規の雇用が少ない。  
臨時職員は大勢いるが、子供が小さく親として欠勤が増え、シフトを組むのが大変である。
- ・働き方改革により有給や休憩時間を取るのだが、子供がいる間はなかなか休憩時間はとれないので、子供が帰った後に1時間自分の時間をとるようにしたが難しい。有給も長期休暇の中でとるようにしているが、預かり保育児が多いのでやはり難しい状況である。
- ・大学生は、牧之原の事件や不適切保育の報道で責任の大きさを感じて保育士になるのをやめている。
- ・安全管理には充分気を付けている。
  - バスの置き去りブザー
  - 登降園のボード化、デジタル化、アプリ
  - 電話での対応、連絡をつけている
  - 家庭訪問の大事さ
  - 門でのセキュリティーの徹底
  - 保護者の名札
- ・保育のあり方
  - 令和の初めに教育要領の改定
  - 今までは教える教育 認知教育重視であった 見栄えの評価
  - これからは子供を主体とした教育 対話をする教育
  - 非認知能力の重要性
  - 遊びから子供達の気持ちを引き出す 意欲
  - 教える教育から子供を見て関わり声かけをする

- ・平成生まれの保育士が指示待ちで聞いてから動く
  - こちらから聞かないと声を出さない 積極的に意見を言わない
  - 先輩の方が迷いが出る
  - 自分のことを周りがどう評価しているかが気になる
  - 失敗を肯定化できるようになって欲しいが伝わりにくい
  - しかし、デジタル化の中でパソコンは得意である 文章も上手である
- ・今の子供達の姿
  - 昔はわんぱくでリーダー格になっていた
  - 今はリーダー格になる子がいない
  - 反対に発達遅滞かな…1才位幼くなっている
  - グレーゾーン 情緒不安定な子 家庭環境からいつも眠い子
  - 早く家に帰ってゲームをしたい
  - 理解力低下…製作 創造力が薄い 一対一の関わりが必要
- ・一対一の支援の子
  - 発達障害の子…補助金がつく
  - 食物アレルギーの子…エピペン使用
  - 一型糖尿病…インシュリン
 } 補助金がつかない
  - 幼稚園は努力義務だった看護師をつけた
  - 小学校は看護師がいなかったが、園と保護者で働きかけて看護師をつけてくれた
- ・気持ちの表現を言葉で表す子が少なくなった
- ・来年度に向けて危機管理は、国の方から学校保健計画、危機管理マニュアル、就業規則を用意するように言われている。やれる範囲でやっている。
- ・自然界も熱中症とかあるので行事も変わってきた。
  - 夏まつりを秋まつりに変更
  - 入園式、卒園式もクラスごとに行っている。
- ・インフルエンザや感染性胃腸炎が増えている。
- ・正規職員が2名増える。
- ・研修も今までできなかったので増やしていく。
  - 「遊びから学ぶ」研修をしていく。
- ・臨時職員は他園から来ている人もいるので、教える教育が主で子供の気持ちに寄り添えない。
- ・命に関わることは特に連携を大事にしていく。
- ・変わらないものは仏教保育の理念 手を合わせる 思いやりの気持ち
  - 命の大切さ 子供の心を育てていく
- ・2月23日「作品展」子どもの絵を通して子どもの心を知る

## 【評価委員より】

- ◆子供も大切だがそこに関わる教師も大切である。  
心配なのは心理的な面であり、心の問題や悩みを出す場が必要ではないか。  
臨床心理士の話を聞く場や自分の気持ちを出す場はあるか。  
→園長との面談等で若い保育士も自分の悩みを出しすっきりしている。  
保護者が感情的に色々な意見を言うので、そこに一番心を痛めている。  
その場があれば良かった。悩みの早期発見が必要である。  
単純な言葉を覚えていくのに、子供向けの短歌、俳句を遊びとして取り入れ、言葉のつながりを覚えていくのもひとつの手立てではないかと思う。  
全国にある退職校長会の動きとして、幼稚園の義務教育化を提案しようという意見が出ている。まだ正式なものではないのでどうなるかはわからない。  
焼津市は交通事故が多い。件数、死者、負傷者が増えているトリプル3  
充分気を付けて欲しい。  
保護者が待てない、せっかちである。
  
- ◆なかなか園の行事に参加できないので、毎月の園だよりを読んで状況を把握している。  
一年前と比べるとコロナもなくなってきて、だんだん戻りつつあるのかなと喜ばしいことだが、先生方はその分また大変になると思うが頑張って頂きたい。  
能登の地震は焼津市も人事ではない。自然災害に対する訓練を地域でもやっているのだから、参加できることは是非参加して欲しい。  
この5町内会は、橋本組の5階に逃げることになっている。  
資材が置いてある。  
神社総代をやっているが、神社でも色々な行事があり、先日は節分祭で豆まきをした。地域の子供は宝なのでまた声をかけるので参加して欲しい。
  
- ◆行事の中で10年前はお父さん達がパパレンジャーとして参加して、豆まきの鬼をやったり、七夕の劇をしたり、子供達と楽しく遊び、お父さん達も発散していた。  
今は土曜保育もなくなり、その機会がなくなった。  
協力しようとする親の理解も薄くなっている。  
学校でも次年度の役員決めには苦勞している。  
PTA、子供会も入らない子もいる。  
子供主体ではなく親主体となっている。

- ◆コロナの影響で園の行事が減ってきた。  
そろそろ行事も増やし、親・子供・園を含めてのコミュニケーションの場を作っていく。なかなか親の協力を得られない。  
コミュニケーションを取る努力をしなければ協力も得られないと思う。  
協力してやってきたコロナ前の事より、やらなくて済んだ今が常習的になってきている。  
自営も減ってきて地元にいなくなったので、地域との連携もとれない。  
個人になっている。  
交通事故も出会い頭、交差点の中の事故が多いのも自分優先になって、ゆとりがない。  
昔は公園等に寝泊まりした不審者が多かったがだいぶ減ってきているが、一週間前駅前通りに不審者が出たという情報が入った。
  
- ◆コロナ禍になってから久しぶりに運動会の招待状をもらい、一日参加でき、子供達の笑顔や保護者の方と共に過ごす時間が持て、楽しくホッとした気持ちになった。  
今は保育以外の大変なことが負担になっている。  
遊びの中から育つことが多いので、そこを上手に引き出して欲しい。  
教育の場として人と人との繋がりの中で育ち合い、一人ひとりを大事に共に成長できるような環境ができることを願っている。
  
- ・クラスの人数と職員の人数について  
クラスの人数を少なくして、丁寧な保育をして育てる方が良いのではないか。  
副担でクラスに先生が2人いると子供も方向性に迷いがでると思う。
- ・保育士不足が問題である。